

景気は前期より悪化。 先行きは不透明感拭えず、悪化する見込み

当所では、毎年2回、会員事業所(金融保険業を除く。)を対象に景況調査を実施しています。

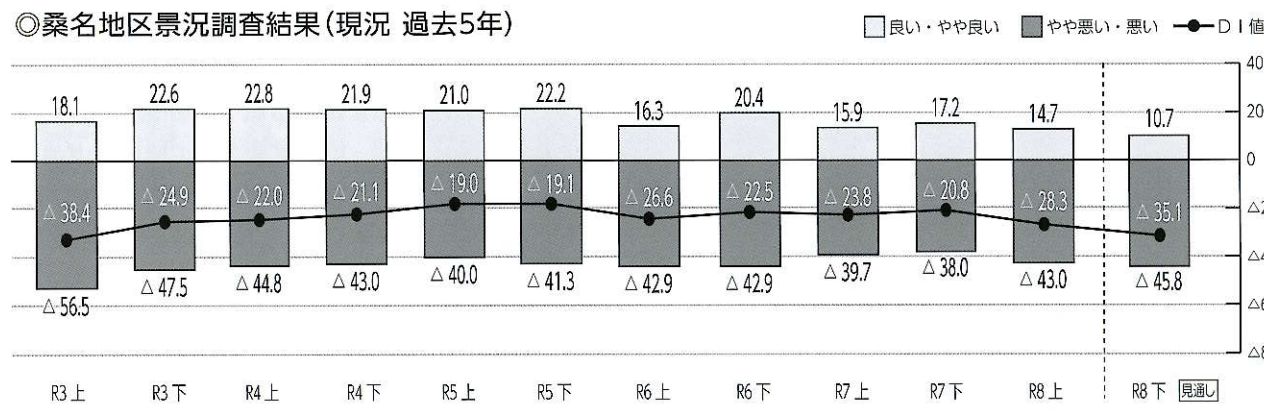
このほど令和8年上期景況調査の概要結果をまとめましたので報告いたします。

調査の概要

調査期間 6月22日～7月10日
対象事業所数 1,672社
回答事業所数 458社(回答率27.39%)
調査方法 郵送によるアンケート方式

※DI値とは「良い・やや良い(増加)」-「やや悪い・悪い(減少)」の差を言います

◎桑名地区景況調査結果(現況 過去5年)



◎景気の現状と今後の見通し

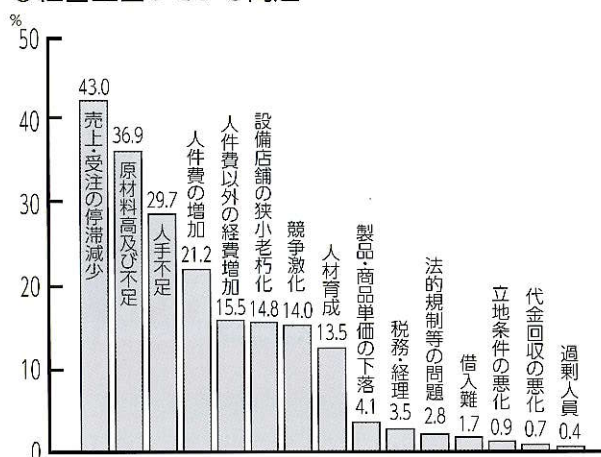
今回の調査では景気の現状について、「良い・やや良い」との回答が14.7%、「やや悪い・悪い」が43.0%で現状判断DI値は▲28.3となった。前期調査(▲20.8)と比べると7.5ポイントの悪化となり、景気は前期と比べ低水準となる結果となった。

前期調査時の今後の景況見通しDI値は▲26.0であったため、見通しより2.3ポイントの悪化となった。売上状況DI値▲21.1%(前期▲17.6%)、利益状況DI値

▲34.1%(前期▲27.5%)であり、売上状況と利益状況ともに悪化したという状況となった。

今後の見通しについては「良い・やや良い」との回答が10.7%、「やや悪い・悪い」が45.8%で、景気の見通しDI値は▲35.1となった。現状のDI値▲28.3と比較し6.8ポイントの悪化となり、不安感が窺える見通しとなっている。

◎経営上困っている問題



◎経営上困っている問題(業種別)

()内は前期数値
※は同率順位

	第1位	第2位	第3位
製造業	売上・受注の停滞減少 50.9%(48.5%)	原材料高及び不足 38.8%(31.8%)	人手不足 25.0%(29.5%)
建設業	原材料高及び不足 61.3%(47.8%)	人手不足 41.3%(33.3%)	売上・受注の停滞減少 31.3%(30.0%)
卸売業	売上・受注の停滞減少 44.2%(40.0%)	原材料高及び不足 32.6%(22.0%)	競争激化 23.3%(28.0%)
小売業	売上・受注の停滞減少 64.7%(46.9%)	原材料高及び不足 36.8%(30.9%)	人件費の増加 26.5%(28.4%)
飲食業	原材料高及び不足 63.2%(62.5%)	人手不足※42.1%(45.8%) 人件費の増加※42.1%(33.3%)	人件費以外の経費増加※21.1%(29.2%) 人材育成※21.1%(4.2%)
サービス業	売上・受注の停滞減少 39.0%(31.1%)	人手不足 28.0%(32.1%)	競争激化 21.0%(17.9%)
交通運輸業	人手不足 64.3%(80.0%)	人件費以外の経費増加 35.7%(30.0%)	人件費の増加※28.6%(40.0%) 人材育成※28.6%(10.0%)

◎経営上困っている問題(3項目選択)

経営上困っている問題については、第1位は「売上・受注の停滞減少」の回答が43.0%（前期37.1%）、第2位は「原材料高及び不足」36.9%（前期28.5%）、第3位に「人手不足」29.7%（前期34.4%）と続き、順位は前期と比べ2位と3位が入れ替わり、原材料高及び不足を課題とする事業所が増えている結果であった。

業種別に「売上・受注の停滞減少」を見ると、製造業・卸売業・小売業・サービス業が第1位となった。「原材

料高及び不足」については、建設業・飲食業で第1位となり、前期よりも原材料高及び不足を課題とする業種が増える結果となった。「人手不足」については、交通運輸業で第1位となった。

「売上・受注の停滞減少」の回答は、前期と比べ交通運輸業以外の業種すべてで増加しており、昨今の物価高・人手不足・将来不安による消費・投資の抑制が重なり、多くの業種で需要が伸び悩み、減少傾向にあると思われる。

◎中東情勢の影響について(今期の追加調査)

中東情勢の影響について、「ある」と回答した事業所は全体の約7割を占めており、多くの事業所で何らかの影響が生じていることが窺える。また、建設業では「原材料高及び不足」と回答した割合が前回調査と比べて28%増加しており、ナフサ不足などの影響を大きく受け

ている業種であると考えられる。

今後の見通しについても先行きを不安視する事業所が多く、今後は悪化傾向になると見込んでいる事業所が目立った。